

ZOOM UP

「13年新入社員意識調査」より

「どんな仕事でも一生懸命に」 前向きな姿勢

Text by しがぎん経済文化センター 山西 麻美

昨年の就職活動は改善の兆しがみえるといわれたものの、リーマン・ショック以前のように未だ回復しておらず、依然厳しい就職活動となった。そのような長く厳しい就職活動を終えた多くの新入社員が、この春から社会人生活の第一歩を踏み出している。当社では毎年3月から4月にかけて、県内企業の新入社員を対象にアンケート調査を実施している。今年の調査結果(有効回答数:624名)から、今年の新入社員の意識を探ってみよう。

入社を動機として「自分の資格や能力が発揮できそう」が4割

『入社を決めた主な動機は何か』(複数回答)との問いには(図1)、「自分の資格や能力が発揮できそう」(39.4%)が最も多く、5年連続でトップになった。また、「企業イメージがよい」は年々増加している(26.7%→29.9%→30.9%)。今年の新入社員も自分の能力を十分に発揮できるかという点に注目して、就職活動に臨んだようだ。また、「企業イメージがよい」を重視する新入社員は、リーマン・ショック後には減少傾向にあったが、企業を選ぶ学生の視点も景気の回復兆候とともに変化しつつあるとみられる。

男性は「意欲・やる気」、女性は「協調性」に自信あり

『社会人として必要なもののうち、あなたが自信を持てるもの』(複数回答)との問いには(図2)、男性では「意欲・やる気」(27.7%)が最も多く、次いで「忍耐力」(24.8%)、「協調性」(22.7%)と続いた。一方、女性では「協調性」(30.5%)が最も多く、次いで「意欲・やる気」(22.9%)、「忍耐力」(22.1%)と続いた。特に男性の割

合が多かった項目は、「意欲・やる気」(男性27.7%、女性22.9%)、「柔軟性」(男性16.9%、女性12.2%)、女性の割合が多かった項目は「協調性」(女性30.5%、男性22.7%)、「責任感」(女性21.4%、男性16.0%)となった。

「定年まで勤めたい」が半数以上

『定年まで勤めたいか』との問いには(図3)、「そうしたい」(55.0%)が最も多くなった。過去3年間の特徴をみると、「そうしたい」(52.5%→53.8%→55.0%)が増加傾向にあり、その一方で「他によい仕事があれば転職する」(16.4%→16.3%→14.8%)、「結婚したらやめる」(6.2%→5.9%→5.4%)が減少傾向にある。転職を考える人が少なくなったことや、結婚後も仕事を続けるという傾向から、内定を決めた会社で定年まで働きたいと考える新入社員像が浮かび上がった。

仕事は「どんな仕事でも一生懸命に」が8割

『仕事が合わない時どうするか』との問いには(図4)、「どんな仕事でも一生懸命

やる」が78.6%となり、8割近くにのぼった。また、「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこにする」は10.5%となり、昨年(9.2%)より1.3ポイント上昇した。また、「転職する」は昨年と同様の3.2%となり、わずかに止まっている。

理想の上司は「イチロー」と「天海祐希」が人気

『理想とする上司像を有名人に例えると』の問いには(表)、男性の上司としては、米大リーガーの「イチロー」が51人(男性38人、女性13人)で8年連続の1位となった。女性の上司では女優の「天海祐希」が54人(男性16人、女性38人)で4年連続の1位となった。『その有名人を選んだ理由』では、「イチロー」は、「頼りになりそう」が21人で最も多く、次に「仕事ができそう」が17人で続いた。「天海祐希」を選んだ理由は、「仕

理想とする上司像				
男性上司	回答数(人)	順位	女性上司	回答数(人)
イチロー	51	1	天海祐希	54
松岡修造	21	2	江角マキコ	22
明石家さんま	15	3	和田アキ子	20
所ジョージ	12	4	篠原涼子	16
橋下徹	11	5	真矢みき 澤穂希	12

事ができそう」が27人で最も多く、「頼りになりそう」「面倒見がよく、何でも相談できそう」が各20人で2番目に多い回答となった。仕事ぶりを尊敬できて頼りがいがあり、そして、困った時に相談がしやすいような上司像が理想のようだ。

自分の能力を存分に発揮し、どんな仕事でも一生懸命に取り組む

昨年の就職活動も、回復の兆しは見えつつあるものの、未だ厳しい状況が続いていた。このように厳しい就職活動の中でも新入社員は、自分の能力や資格を存分に発揮できる会社に焦点を当て、就職活動に臨んだようだ。このような背景もあり、どんな仕事でも一生懸命にやるという前向きな姿勢が強く、また、入社した会社には「定年まで勤めたい」と考えている新入社員が多い傾向にある。これから長い社会人生活の中で、大きな壁にぶつかった時に今持っている意欲的な気持ちを思い出して前向きに進んでほしい。また、受け入れる側も今年の新入社員の特徴を踏まえ、温かくも厳しい目で見守ってほしいものだ。

図1 入社を決めた主な動機 上位10項目(複数回答)

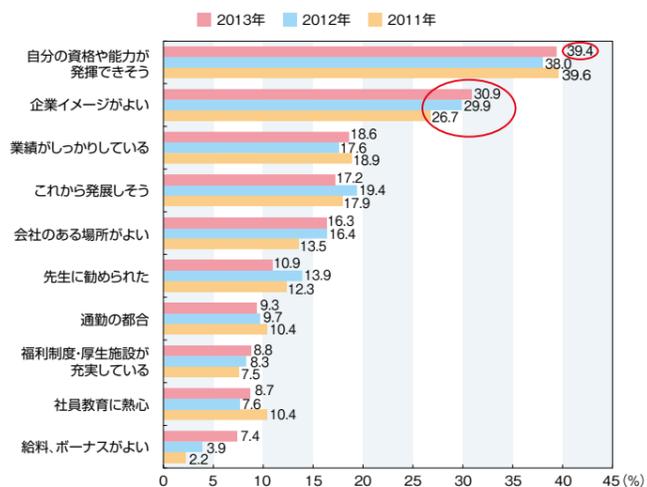


図2 社会人としてあなたが自信を持てるもの(男女別、複数回答)



図3 定年まで勤めたいか

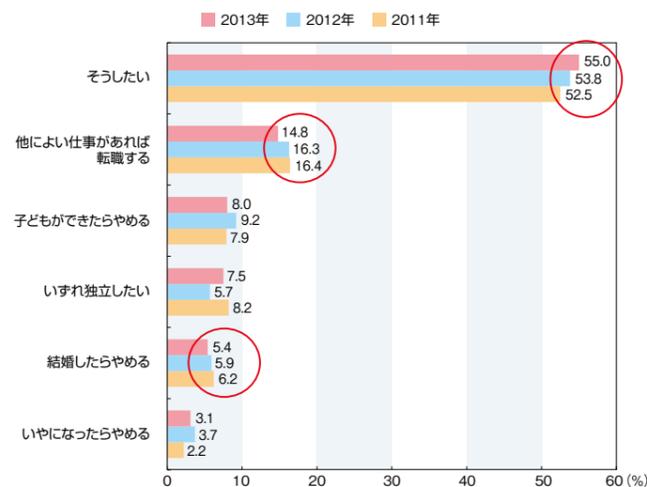


図4 仕事が合わない時どうするか

